

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		08 02 03	中期総合計画主要施策番号		2-02		担当課	部・課	観光部観光振興課	
事業名		温泉地・スキー場地区再生モデル事業				内線		3537		
						E-mail		kankoshin@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	低迷している県内の温泉地やスキー場などの観光地において、地域の観光事業者や住民等が協働して取組む市町村に対して、県が支援し、観光地の魅力を向上させ、再生する。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)]								
		観光旅行者数及び観光消費額、スキーなどの冬季観光旅行者の減少。								
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)]								
	事業内容	少子高齢化や価値観の多様化など社会経済状況の変化及び観光需要・観光環境の変化。								
[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)]										
実施期間	H19 ~		根拠法令等	温泉地・スキー場地区再生モデル事業補助金交付要綱、「観光立県長野」再興計画						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価	
	初年度において観光アドバイザーの助言を得ながら、各観光地ごとに再生プランを作成し、その後3年間でプランを実行し、観光地を再生していく。		平成20年度に4地区を対象地区として新規採択し、各協議会において各モデル地区の戦略と具体的目標を定めた再生プランを策定すること。 平成19年度採択の5地区については、観光地再生のために、各協議会の合意に基づき観光地再生に資する事業を実施すること。			新規4地区が、観光地再生協議会を設置し、県が派遣する観光振興アドバイザーを活用しながら、再生プランを作成した。 前年度に再生プランを策定した5地区については、再生プランに基づき事業を実施した。			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	850	30,518	68,694	国庫・県単	国庫・県単		
	決 算 額 (B)		千円	850	30,149		実施方法	直接・補助		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	850	17,182	38,438	歳出節別内訳等	・報償費:380 ・旅費:212 ・補助金:29,557		
	概 算 人件費		千円	14,280	17,158	17,873	(単位:千円)			
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	15,130	47,307	86,567					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	再生モデル地区数(累計)		地区	5	9	11	昼神温泉地区:足湯設置、茅野直行バス運行等 浅間温泉地区:公式マップ案内サイト開設等 戸倉上山田温泉地区:空き店舗活用等			
	観光振興アドバイザー派遣数		人日	17	15	34	おんたけ高原スキー場地区:クロススキーコース開設等 小谷3スキー場地区:スキー場での様々な遊びのモニターツアー実施等			
事業課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	経済情勢が厳しく低迷している温泉地・スキー場は多いが、新たにモデル地区を4地区追加し合計で9地区において再生プランが策定された。 策定された再生プランに基づく事業の実施は、まだ1年度目であり、誘客効果や顧客満足度効果が現れてくるのは2年度目以降であると考えている。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		策定された再生プランに基づく事業の実施1年度目だったが、観光地再生のためのモデルとなりうるいろいろな取組みが行われた。策定された再生プランに基づく事業の実施2年度目に当たっては、1年度目の事業評価(誘客効果や顧客満足度効果)を再生協議会自体が行い、2年度目以降の事業に反映させていく必要がある。 県としては、モデル事業の成果をモデル地区以外の地区にも反映させ、地域の力で観光の再生を行っていただけるよう地域の自立的な取組みを支援していく必要がある。								